

阪田悦子

10月例会 議事録

日時： 2025年10月2日(木) 14:00~16:00

場所： 川本店

出席： 川本 阪田 阪田悦子 笹嶋 杉田 鈴木 中村 牧 吉田 9名

- 1 10月10日(金)に地元ガイドの方の案内で伊丹を訪ねます。この行事は終了しました。当日の記事を4~5ページに掲載しています。
- 2 11月21日(金)に三田市を散策します。麒麟ビール工場を見学し牧さん設計の三田市立図書館などを見学。陶磁器、三田焼きを吉田さんの解説で味わいます。昼食は麒麟ビール内のレストラン。JR 茨木駅 8時45分集合。尼崎での乗り換えの時間が少ないため、10月号の案内書より15分早めました。参加者 川本 阪田 阪田 笹嶋 杉田 鈴木 中村 長谷川 牧 松岡 吉田 吉田 12名
- 3 重要文化財、北浜「コニシ」の見学が可能になっています。12月12日(金)の10時から見学を予定しています。現地の見学予約は1か月前の11月12日(水)からです。昼食予算4,000円程度の見込み。
- 4 なんでも鑑定団」のおにクル収録があります。10月25日(土)、放送は年内の予定。
- 5 新年の行事予定 3月は堺の鉄砲コース、昼食料金4,000円程度。 4月はお花見、行先京都西山善峯寺。 5月京都上賀茂周辺でかきつばた見学 6月ダムパークいばきた担当杉田。 10月草津おんせんどろぼう 本陣など 11月尼崎新コース 12月淀屋橋彫刻散策と淀屋橋ツインタワー。
- 6 重要文化財である奈良女子大学の建物を見学できます。4月20日頃から5月10日ごろの1週間限定、先方の日程に合わせて奈良まち歩きを企画します。担当中村
- 7 茨木市内 斎場と桑田公園への道路計画が始動した。完成は15年後を見込む。
- 8 今後の例会実施日 11/6(木) 12/4(木) 1月なし
2月なし 3/5(木) 4月なし 5/7(木)

以上



万博閉幕

大阪・関西万博が10月13日に閉幕しました。当初の不評をはね返し一般来場者は2500万人を突破し熱をおびたまま幕を閉じました。今回の万博にあたり会員の杉山さんから2回にわたり原稿をいただき街ingニュース2月号と9月号に掲載しました。マスコミで報道された内容よりはるかに本質をとらえた内容になっていますので再掲します。

街ingニュース 2025年2月号に掲載

大阪・関西万博

杉山英俊

1970年、「人類の進歩と調和」をテーマに大阪で開催された万博。多くの企業・建築家・芸術家によるパビリオン建設や映像・音響などが展示されました。動く歩道、モノレール、リニアモーターカー、電動自転車、電気自動車、テレビ電話、携帯電話、缶コーヒー、ファミリーレストラン、ケンタッキーフライドチキンなど、現代の社会で普通に使っている製品やサービスが初めて登場したのもこの万博です。いまでも時々万博記念館に行くことがあるのですが、あの時代にこれだけのものが一気に出てきた事に驚きを覚えます。

当時はテーマパークもショッピングモールもなく、ニュータウンやマンションもまだまだ一般的ではありませんでした。昔ながらの下町の、昔ながらの長屋に住んで、ようやく普及したカラーテレビで見るSFの世界や外国の文化に興味津津だった10歳の私は、体験した事のない未来のデザインや技術、初めて見るほんものの外国人に、子どもながらドキドキワクワクした事を55年たった今もはっきりと覚えています。

さて、間もなく大阪で2回目となる万博が開催されますが、今回のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、150ほどのパビリオンや様々なイベントを通じて、ロボットやバーチャルリアリティー、先端医療などの未来技術と、アニメ、音楽、芸術や世界各地の文化などが紹介されるとのこと。しかしながら現代では、身のまわりに常に新しい技術やデザインがあり、世界中の情報も瞬時に調べる事が出来ます。様々なテーマパークなどで、SFやアニメの世界、また、未来のみならず過去の町並も体験する事が可能で、55年前の万博のような、世界観が変わるような衝撃を味わう事は難しいのではないのでしょうか。前売りチケットが思うように売れないのもそう言う所が原因かもしれませんね。

運営側は、「前売りが伸びないのはよくあること。一度来場した人達の口コミや、マスコミでの展示内容の情報発信などで、段々と来場者が増えればいい」と言っているようですが、やはり大事なものは内容。他のテーマパークと一線を画したような明確なコンセプトやゆるぎないポリシーを感じなければ、なかなか来場者の心をドキドキワクワクさせるのは難しいでしょう。とは言うものの、そこは新しいものの好きの私。一度は行ってみたいと思うのも本音です。私の想像を吹き飛ばすような素晴らしい展示が待っているのか、それとも、「あ〜、やっぱり」と思うのか。それは行ってからの楽しみ。できれば、ただの技術自慢ではなく、人間の心を豊かにし、50年後に、「あの万博を機会に世の中が良くなった」と言われるような内容であることを願います。もちろん私は50年後までこの世にいませんので、検証する事はできませんが・・・

関西万博が4月13日に開幕して4カ月、あと2か月となりましたが、目標来場者数2820万人に対して8月15日現在の累計は1550万人。目標を達成するかどうかは終盤の伸びにかかっているようです。皆さんはもう行かれたか？ 私は2回行きました。と言う事で、今回はその時のレポートです。

一回目は、レストランに抽選で当たった時で、テストとは言うものの運営が本当にひどかった。

- ・チケット購入や来場予約、パビリオン予約などをする専用アプリがすごく分かりにくい。
- ・駐車場からのシャトルバスでの移動がスムーズではなく、あちらこちらでトラブルが続出。
- ・9:00にゲートオープンしてから手荷物検査するので、入場に1時間以上かかった。
- ・パビリオンの予約は取りにくく、予約なしなら1時間以上並ぶのが普通。
- ・レストランなどが全く予約が取れず、テイクアウトも長蛇の列。
- ・閉園まで滞在すると、ゲートから駐車場や駅まで1時間以上かかる。

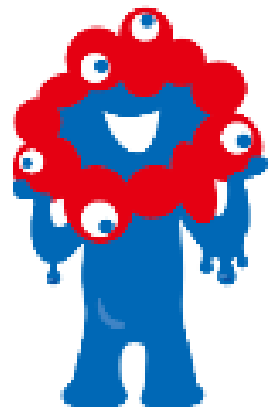
などなど、ストレス一杯でした。

2回目はオープン2週間後に電車で行きました。

- ・アプリは相変わらず分かりにくいですが、こちらが使い慣れたので何とか大丈夫。
- ・手荷物検査はずいぶんスムーズになり、30分掛らずに入場できた。
- ・人気レストランはやはり予約しにくいですが、販売はかなり段取り良くなっている。
- ・パビリオン入場も並ぶのだが、その間飽きないような工夫もされるようになった。

と、かなり改善されているようで、安心しました。

展示内容かというと、2回とも孫を連れて行ったので、主に国内パビリオンしか廻っていませんが、技術や映像に頼りすぎている感じで、「いのち輝く未来社会のデザイン」があまり感じ取れなかったようです。とは言うものの、圧巻の大屋根リングや、最新技術やテーマ性を持たせたパビリオンなど、見応えのある所もあり、ガイドブックで下調べを十分すれば、それなりに楽しめると思います。もちろん、EXPO70で、初めて見る技術や外国の文化に強い衝撃を受けた世代としては、やはり物足りなさを感じてしまう事も事実。ただ、私が行ったのは2回共孫を連れてなので、外国のパビリオンはほぼ見れていない状況で、このまま評価を下すべきではありませんね。ネットではたくさんの情報飛び交い、なんだか面白そうなパビリオンもたくさんあるようで、ぜひもう一度、今度は海外パビリオンを中心に廻りたいと思います。皆さんもし行かれるのなら、十分な水分と軽食、うちわなどの涼しくなる工夫をお忘れなく。



飛行場だけではなかった 伊丹の歴史と文化を訪ねて

実施日 2025年10月10日(金)

参加者9名 川本 阪田 杉田 鈴木 谷木 中村 長谷川 牧 松岡

当日の様子

今回の舞台は伊丹市。大阪国際空港を有し、古くから、西国街道の要所として賑わってきました。白雪で知られる老舗酒造、歴史ある寺院、伊丹郷町の城跡が風情を添え、伝統と現代が調和する魅力あふれる町でもあります。この伊丹を地元ガイドさんの案内で散策し伊丹の魅力を探りました。案内をいただいた地元ガイドさんと、企画をしていただきました長谷川さんに感謝いたします。

参加者の感想

- 伊丹は織田信との関があり興味深いです。
- ガイドさんの説明が丁寧で、伊丹の歴史がよく分かりました。
- 小西酒造「長寿蔵(ちょうじゅくら)」の昼食、おいしかったです。
- 昼食後に現地解散のスケジュールは余裕ができて、参加しやすいです。
- 伊丹は、今日のコース以外にも古墳や都市景観建造物、昆陽池(こやいけ)公園など見どころがあるのですね。また、伊丹を散策したいです。



1574年、荒木村重が伊丹氏を追放し、伊丹氏の築いた「伊丹城」を大改築して名を「有岡城」と改めた。高台の岡にあるのに由来する。村重が主君の織田信長に背き、大軍に攻められて1579年に落城した。なお、本能寺の変は1582年である。近年発掘調査が行われ、新事実が明らかになっている。その内容をガイドさんから聞きましたが、ちょっと忘れてしまいました。

猪名野神社にある、上島鬼貫(うえしまおにつら)の句碑。鬼貫は東の芭蕉、西の鬼貫と称された江戸時代の俳人とのことです。鬼貫は伊丹ではよく知られているのでしょうか。

鬼貫の句
行水の 捨てどころなし 虫の声





旧岡田家住宅
江戸時代に建てられた店舗
と酒蔵からなる、重要文化財
の建物です。酒造りの様子や
清酒で栄えた伊丹の歴史が
展示されていました。

昼食会場、小西酒造「長寿蔵」の
お土産売り場です。「長寿蔵」で
お土産に購入した奈良漬は、ス
ーパーの製品とは一味違いまし
た。



小西酒造「長寿蔵」は、酒蔵を改装し
たレストランです。造りたてのクラ
フトビールや日本酒と相性のよいお
料理が評判ですが、お酒を飲めなく
ても十分楽しめました。



バナナバックの話

杉田 宗三

「パリでは貴重品を身体の前でしっかり抱えることができる『バナナバック』が必需品です。それこそ、みんなひとつはもっていると断言できるくらい。」というネット記事を見て、「バナナバック」とは何だろうと思い検索しました。

~~~~~

### ◇地球環境に貢献するバナナバック作りプロジェクト

バナナバックは、スリランカのバナナの茎を利用して作られたバッグ。軽くて丈夫な素材として注目されています。

これらのバックは、アップサイクルブランドによって製造され、環境に優しいとされています。

バナナは「草」の植物で、木の幹のような部分は「幹」ではなく「茎」です。

バナナの寿命は約一年。いったん実を収穫したら地上 50cm ほど茎を残して伐採します。これまでは、伐採された茎は廃棄物として処分されていた厄介者でした。放置しておくとも腐りますし、野焼きすると煙は大気汚染の原因になります。

廃棄物を減らし、資源を有効活用できないかと長年模索され、茎をアップサイクルすることにより地球環境にも貢献でき、現地住民の仕事も創り出せるとしてこのプロジェクトが始まりました。

茎の部分は、葉が幾重にも重なっている構造のため、タケノコの皮のように一枚一枚むいて内側の白い綺麗な皮を使っていきます。

薄くむいた茎から繊維を取り出すには 2 通りの方法を取り入れています。

一つ目は、圧縮機に通す方法。圧縮して引き抜き、繊維だけを取り出します。

二つ目は、ナイフで表面を削り取り、不純物を極限まで除去する方法です。細く長い繊維を取り出すことができます。白くてしなやかな高品質の繊維になりますが、時間も労力もかかるため、一部分の製品にこれを使用しています。

いずれも薬品を一切使わず、環境負荷の少ない製法であることを大切にしています。

抽出した繊維を水にさらして乾かしたあと、手作業で最高品質の糸に紡いでいきます。

バナナ繊維だけで均一な太さに紡いでいくのは、手作業でしかできない難しい作業です。

最後に軽くて丈夫な糸にしたバナナ繊維をマクラメ編みや様々な方法で製品へと生まれ変わらせます。





## 白米ご飯の話

杉田 宗三

新米の季節到来、江戸っ子は米が大好きだったという話。

日本人が1日3食摂るようになったのは、江戸時代・元禄期（1688～1704）以降のこと。3食になった江戸っ子の食生活はまさに米が中心だった。

まず朝に一日分の米を全部炊き、朝は炊きたての温かいご飯だが、昼と夜は冷ご飯となる。これを汁物や漬物、野菜、魚といったわずかなおかずで食べる。夜は茶漬けにすることが多かったようだが、とにかく炊いた米は一日で食べきってしまう。その量、成人男性は一日5合にもなった。

そもそも庶民が消費できる米がそれほどあったことに驚かされるが、これは農業技術の発達、市場への年貢米の放出などの理由が考えられる。

そして、日本の中心である江戸には、年貢米を始め全国各地から大量の米が集められた。精米用の

水車も発達していたことから、江戸では庶民も精米した白米を食べていた。当時、白米を食べられたのは江戸の庶民と大阪の上級武士に限られた。

それで、白米が主食の地域にはビタミンB1（玄米に多く含まれる）不足が原因の病が発症する。脚気だ。原因がわからなかった当時は謎の病として「江戸煩い」「大阪腫れ」と呼ばれた。

ちなみに江戸時代の水車を使う精米法だと、皮直下のうまみ成分が残る。ゆえに、我々が食べている機械精米の米よりも、香りとうま味が際立っていた。少しだけのおかずでも、ご飯が進んだのかもしれない。



~~~~~  
本記事は、日本橋コミュニティセンター（東京）発行のタウン誌「日本橋 9月号」からの転載です。

次回のイベント

街歩き 11月21日(金) 兵庫県、三田周辺の街歩き JR 茨木 8時45分集合

—— 次回『街ing いばらき』例会のご案内 ——

日 時： 令和7年11月6日(木) 14:00～16:00

場 所： 川本本店 茨木市上泉町 6-29

議 題： 1. 10月10日(金)の伊丹散策の振り返り
2. 11月21日(金)の三田散策
3. 12月12日(金)の北浜・コニシ見学 他

『街ing いばらき』とは？

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年5回程度の街歩きを行っています。

参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。

とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。

入会金 1,000 円 会費 年間 2,000 円(一か月 170 円)



« 編集後記 »

- 10/10(金)の伊丹散策が終了しました。今回も無事故で何よりでした。
- 次回街ing のイベントは11/21(金)の三田散策です。三田図書館のみならず麒麟ビール工場内のレストランはお値段以上との評判です。
- 集合時間を案内より15分早め、8時45分、JR 茨木駅集合としています。お間違えないようにお集まりください。
- 4月13日に開幕した万博が10月13日に閉幕しました。半年も1年も早いですね。

« 編集・発行 »

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目10-22

Tel/Fax 072-627-3480

e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

街ing ホームページ : <http://wwa.machiing-ibaraki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2025年10月現在での訪問者は10,580 <前月比20の増加> となっています。

